

1. 単元名

「協力して 生ごみをへらそう大作戦！」

2. 目標

A. 「かかわる力」

生ごみの実態を調べるために全校や家庭に聞き取り調査をしたり、食事を作ってくれている人の思いにふれたりする活動を通して、命をいただくことや食事を作ってくれている人に感謝の思いをもつとともに、課題解決に向けて友だちと協力して話し合ったり、主体的に人と関わろうと行動したりすることができる。

B. 「学ぶ力」

社会科の学習と自分たちの給食の状況をつなぐことで課題を設定し、集めた情報を思考ツール等使って整理分析するとともに、他のグループや活動に関わっていただいた外部の方々等に批評してもらうことで整理分析する力を身につけることができる。

C. 「みつめる力」

学習をふり返る活動を通して、自分たちの学びのよさに気づき、以前の自分と比較しての成長を実感できるとともに、生活の中で身近なところから自分にできることを考え行動しようとするすることができる。

3. 指導の立場

(1) 子どもの実態と学習対象

総合的な学習の時間において、昨年度、子どもたちは鶴岡地区のおすすめスポットを調べて紹介する活動に取り組んだ。その中で、伝えたい内容を調べたり、思考ツールを用いて考えを広げたり分類したり、自分たちの知らせたい事を誰かに伝えようとする思いをもったりする経験はしている。最終的には「本にして地域に伝えよう」という計画になっていたが、全校や地域など学級外の相手に伝える活動ができず、学級内での発表になってしまったことに悔しさを残しているという話を4月に子どもから聞いた。

しかし、子どもたちは総合的な学習の時間に対しては、「楽しい」「調べる力がつく」「話し合う力がつく」などの印象をもっている。これらの言葉から「総合をがんばりたい」「もっと調べたり伝えたりする活動をしたい」という思いを感じた。子どもたちの関心意欲を生かしながら「協力して生ごみを減らそう大作戦」というテーマで探究活動を実践することで、子どもの主体的な学びを引き出し、より一層探究すること協同することの楽しさや意義を感じてほしいと考えている。

A. 「かかわる力」について

子どもたちは話し合いなどグループ活動に意欲的である。しかし、小グループの中で考えの伝え合いができていだけで、自分と違う友だちの考えに対して「それいいね」「私にはそんな考えは思いつかなかったよ。すごいね。」などお互いに認め合うような言葉が聞かれることは少ない。それは、周りと違う自分の考えを友だちから認められる経験や、友だちと協力したり様々な方から力を借りたりして何

かを達成した経験を十分にさせることができていると起因していると考えられる。

この単元は、社会科「ごみはどこへ」をきっかけに「給食の食べ残しや家庭での生ごみを減らしたい」という子どもたちの声から始まった。そのため、子どもたちはすでに課題意識をいくらかはもっており学習対象に対して主体的な立場に立っていると考えられる。また、今回はいろいろな外部の方の力を借りないと「生ごみを減らす」ことはできない。自分たちが協力しないのに他の人たちに協力をしてもらうことはできない。だからこそ、活動の中で「目的を達成するためには協力するしかない」という思いが生まれ、協同的な学びの質が高まることも期待できる。

これらの経験を積み重ねていけば、協力することの楽しさ、伝えた思いが認められる経験を味わえ、その結果として自分に自信をもち、主体的に行動できる力を育むことも期待できる。また、子どもが主体だからこそ、本当に心から人や食に感謝の思いをもつことが可能であると考えた。

B. 「学ぶ力」について

子どもたちは課題設定の場面において、自分たちがしたいことを見つける意欲はもっている。しかし、まだ経験が少ないために何が自分たちの解決したい課題で、その目的は何なのかを考える段階までは至っていない。

6月から社会科「ごみはどこへ」の学習に入ったが、自分の家庭で出るごみ調べをすると「紙類」と並んで「生ごみ」が1番多いことに驚いた。しかし、それが自分たちとどうつながっているのかについては十分に目を向けられていなかった。ただ、何人かの子どもは給食の際に食べ残しが多いこととつないで考えていた。それを生かせば、他人事から自分事に意識を変えていくことができると考えた。

さらには、自分たちの給食が、家庭の食や日本の食へと広がりをもたせることも可能であり、そこに内在する様々な問題について課題意識をもつことができると考えた。

情報収集においては、子どもたちが思いつく収集方法はインターネットや本が中心だった。それは、収集方法を考える機会がこれまで学習の中でなく、選択肢が少なかったからだと考えられる。生ごみを減らすためには、生ごみの量や生ごみを減らすための工夫をしているかなどの実態を聞いたり思いを伝えたりするのに身近な人の協力が必要となる。そうすると、「インターネットや本ではわからない。」「実際に人に聞いて回らないとわからない。」「このままでは地域の人に伝えるのに説得力ある情報が足りない。」という思いが出るのが期待できる。また、ゲストティーチャーに協力を依頼するなどの方法を知ることができる。このようないくつかの選択肢と課題意識があることで、友だちと協力して話し合いながら収集方法を選択する場が設定できると考えた。

整理・分析の場面においては、集めた情報を目的に合わせて取捨選択することなく、そのまま使ってしまうことという実態が発達段階や経験不足からある。また、授業などで話し合っていく際に視点がずれてしまうことも多い。そうすると、何かを解決したり、一つの事を決めたりするのに時間がかかってしまい、本来の目的も見失ってしまう。今回の単元では生ごみを減らすために「誰に伝えると一番効果的か」「何を伝えたら生ごみを減らすことにつながるか」「何のために自分たちは生ごみを減らしたいのか」を考えることが必要となる。その際には、集めた情報を関連付けたり比較したりするなど、整理・分析の視点を明らかにした取り組みが必然的に行われることが期待できる。加えて、それに必要な思考

ツールの活用スキルを高めることも可能だと考えている。

まとめ・表現については、子どもたちは表現活動をすることには意欲的だが、相手意識や目的意識が不十分なために、相手に伝わる工夫が不足している。それはまだ4学年ということもあり、表現方法の選択肢も、誰かに伝えたという経験もそれほど多くないからだと考える。この学習は、生ごみを減らすことを目的としているので、多くの人に協力ををお願いする必要がある。また、より多くの人に生ごみを減らす協力をしてもらうためには、相手が全校児童になったり、地域の方や家族になったりした際に、伝えたい相手によって最善の方法を考えることが必要となる。自分たちが考えた「相手」「内容」「方法」を形にすることで、伝えるための工夫も生まれ、表現力の向上が期待できると考えている。

C. 「みつめる力」について

これまでは自分たちの活動をふり返って、“学びのよさ”を強く感じるころまではできていない実態がある。それは「これがしたい」という思いは強いが、これまでに「誰かのために役立てた」「課題を自分たちの力で解決できた」という経験の積み重ねが十分でなかったことが考えられる。

「生ごみや食べ残しについての知識が少なかった」「相手によって工夫の仕方を変えることをあまり意識していなかった」自分たち。そんな自分たちがたくさんの情報を集め、相手意識や目的意識を明確にしながら活動を進める。その過程で、課題解決に向けて多くの試行錯誤を繰り返す中で一步ずつ前進することで自らの“学びのよさ”にふり返りの中で気づくことができると考える。また、教師から努力や成長を言葉で返されたときや、全校や地域の方などから評価の声が聞かれて認められたときに自分の成長を実感し、自信をもち、充実感を味わうことが期待できると考えた。

(2) 指導について

①活動全体を見通した留意点

活動を進めるにあたっては、以下の点に留意していきたい。

- 子ども主体で活動が進むように、場の設定を工夫したり、次の活動につながるように振り返りをしたりすることで、子どもの思いや言葉、思考の流れを大切にする。
- 「失敗から学ぶ」を基本にし、失敗やつまづきを予想しておき、柔軟に対応をしていく。
- 思考ツールを意図的に活用し、使い方に慣れさせるとともに、よさを実感させる。
- 友だちや地域の方、食に携わる方等と繰り返し関わる機会を設定し、協同的な学習を進める。

②探究的な学習プロセスの構成

この単元は、「環境のために」「身体のため」「食事を作ってくれる人たちの思いに応えるために」生ごみを減らしたいという思いからメッセージを全校や地域の方に広めることをメインに探究的な学習のプロセスを構成する。課題設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現のプロセスを経験させ、総合的な学習の進め方も身に付けさせていきたい。

第1のプロセスでは、社会「ごみはどこへ」の学習から給食の食べ残しがゴミになっていく事実を給食センターとのやりとりから知ることから始める。そこから、自分たちの給食の様子と結びつけ「食べ

残しを減らしたい」という思いがもてるようにつないでいく。そして、給食の食べ残しを減らすために自分たちにできる事を考え、全校に伝えたい食べ残しの量や給食センターの方の思いを調べ、どのように伝えるか話し合う。最後に、集会で全校に伝え、この経験をふり返り、次のプロセスへとつなぐ。

第2のプロセスでは、「全校だけでなく地域の人にも伝えよう」という思いから、給食だけでなく家庭で捨てられる生ごみを減らすためにできることを考える。家庭でできる「生ごみを減らす方法」を考える際、「食べ残し」だけでなく「調理するときに捨てられるもの」に目を向けていく。そこから、「ホールフード」の視点で「捨てられるものを減らす」と同時に「栄養もとれる」「環境を守ることにもつながる」ということを、佐伯で「ホールフード」に携わっている河野さんから教わる。一緒に調理をする中で、「生ごみを減らすことは、皮などで栄養がとれて環境を守ることにもつながるのに、なぜ日本は生ごみが多いのだろう？」というギャップからさらに課題意識を高める。そこから、チームに分かれて役割分担したり、インタビューやアンケートで給食や家庭の実態の情報を集めたりしていく。そして、「誰に」「何を」「何のために」伝えるのかを話し合いながら明確にしていき、発信方法を考えていく。

「ホールフード」

皮も根っこもまるごと食べる「全体食」から生まれた言葉であり、食や暮らし、農業、環境を同じフィールドでとらえる考え方。

第3のプロセスでは、「本当にたった1回の発表でみんなが生ごみを減らす工夫を続けてくれるかな。」と疑問をもつところから始める。生ごみを減らす工夫を「だれでも」「いつでも」「簡単に」することができる方法はないか考えさせる。そこから、手元に置いてすぐに見ることができるものを作らないといけないことに気づかせる。最終的には、全校や地域の人に完成したものを配り、生ごみを減らす協力を得られるように呼びかける。

<課題設定>

3年生で総合的な学習の時間の経験はあるが、誰かに発信するところまではできなかったので「だれに」「何を」「何のために」という目的をしっかりと意識させながら、活動を設定していきたい。具体的には、社会「ごみはどこへ」の学習や自分たちの給食の実態から、「食べ残しを減らさないといけない」という意識をもつことから始まる。「食べ残しや生ごみはどのくらい出ているのか」「どうすれば生ごみを減らすことができるのか」などについて調べていき、「いつもの給食には“たくさんの人の思い”“たくさんの栄養”“があるのに簡単に捨てられているのはどうして?”という思いを高めていく。

自分たちの力で地域に生ごみを減らす協力を呼びかける活動を実現させるためにホールフードについて学習して調理したり、人の思いを受けたりして「自分たちにできること」を考え実行できるような課題が設定できるよう、調査や見学、GTの話等を生かしたい。子どもたちの思いや言葉から「どうしてかな」「～のに生ごみが多い」「～したい」という言葉が出るように、教師の出番を考えて声かけしていきたい。

<情報収集>

活動に必要な情報の収集方法は子どもたちが考えた方法を生かしたい。インターネットや本だけでは情報が集まらないという困りを経験させ、どのような方法をとるのがよいか話し合う場を多く設定したい。インタビューやアンケートをする際も「自分たちの目的に必要な情報は何か」「必要な情報を得るための質問はどうすればよいか」など、子どもたちで話し合いながら考えさせていきたい。収集した情報は模造紙等で掲示するとともに、子どもの思考がつながりやすいようポートフォリオに蓄積していく。また、情報収集をするためのゲストティーチャーは事前に想定しておくが、教師が出会わせた形でなく、子どもが調べていく中で「課題を解決するためにこの人に聞きたい」という声からゲストティーチャーと出会わせるようにしたい。

<整理分析>

収集した情報を目的に応じて整理し、新たな考えを生み出したり活動の方向性を自分たちで決めたりすることができるように思考ツール等を活用し、可視化しながら整理・分析をさせたい。思考ツール等活用しての整理・分析する経験は3学年の際にあったが、どのような際にどのように使うとよいか理解するところまではできていない。そのため、1学期から少しずつ思考ツール等を活用する前に「たくさんアイデアを出し合う?」「しばっていく?」などと聞いたりして、思考ツールを使う意味や便利さを実感させたい。また、子ども主体の学習をめざすためにも、子どもが自分たちの学習や目的に合った思考ツールを選択し活用できるようにしていきたい。その中で、子どもたちが自分の思いや考えを進んで表現するとともに、協同して話し合うことの良さをさらに実感できるようにしたい。あくまで思考ツールを使うことが目的でなく、子どもたちが必要感をもって活用できるように留意する。「誰に」「何を」「何のために」伝えるのか、自分たちの目的をいつも見失わないように整理・分析させていきたい。

<まとめ・表現>

まとめ・表現の場面では、相手意識や目的意識をしっかりとさせた表現内容や方法を考えさせ、自分たちの思いをそのまま形にできるようにしたい。そのために、「誰に?」「何のため?」などの問いかけを授業の中で随時確認しながら、気持ちが切れないようにしていく。また、失敗を想定した上で積極的にチャレンジさせ、「失敗から学ぶ」ことを実感させたい。そして、また新たな課題が生まれ、その課題に向かっていけるよう最後まで子どもの気持ちや目的を確認する。最終的には、「生ごみを減らそう」というメッセージを地域の人に呼びかける。相手意識と目的意識を踏まえ、伝えたい相手、伝えたい内容に合った方法を考えさせる。そして終わった後に、達成感や成就感を味わうことができるよう、自身のふり返し、教師や外部からの声から自分たちのこれまでの学びのよさに気づかせたい。最後まで子どもたちの思いや発想を生かした学習にしていきたい。

4. 付けたい力

A. かかわる力	B. 学ぶ力	C. みつめる力
A1 課題解決に向けて、意欲的に友達と協力して話し合うことができる。	B1 食材のよさや食に携わる人への思いと、簡単に捨てられている現実とのギャップから課題を設定することができる。	C1 自分や友だちの学習をふり返し、自分の成長を自覚することができる。

<p>A2 身近なごみや食べ残しに目を向け、食に携わる人の思いを受け止め、協力して活動することができる。</p>	<p>B2 目的に合った情報収集方法を考え、選ぶことができる。</p> <p>B3 見学や調査で分かったことを、目的に応じて比較したり関係付けたりして、課題解決方法を考えることができる。</p> <p>B4 相手意識や目的意識をもって表現方法を選択し、表現することができる。</p>	<p>C2 自分たちの学習をふり返り、生活に生かそうと行動することができる。</p>
---	--	---

5. 単元計画 (全 70 時間 : 国語 8 時間 社会 6 時間)

過程	時間	活 動 内 容	支 援	評 価
課題設定	3	<p>【探究プロセス1】</p> <p>今年の総合はどんなことがしたい？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域に何かを伝えることをしたい。 ・佐伯の野菜を知って食べてもらいたい。 ・食べ残しを減らしたい。 <p>「なんかそれ、0円食堂みたいやな」</p>	<p>社会「ごみはどこで」 (2時間)</p> <p>○ウェビングマップで今年の総合でしたいことのイメージを膨らましていく。</p> <p>○なぜしたいのか、目的も確認しながら今年の総合への意欲と見通しをもつ。</p>	B1
		<p>食べ残しを減らしたいのはなぜ？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの食べ残しが多いから。 ・社会でごみ調べをしたら、生ごみが多くてびっくりしたから。 		
		<p>鶴岡小の食べ残しの量について調べよう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給食センターに手紙を書こう。 ・給食センターの人たちはわたしたちの栄養のために一生懸命毎日作ってくれているんだね。 		
情報収集	6	<p>集めた情報をどうする？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・だれかに伝えたい。 ・給食のことだから全校だよな。 ・全校に伝えたらそのあと地域に伝えて、どんどん広がっていこう！作戦立てないと。 	<p>○インターネットや本、給食センターには手紙で情報を集める。</p>	A1 B2
整理分析	7	<p>自分たちの取り組みのタイトルをつかって、作戦を立てよう！</p>	<p>○タイトルに入れたいキーワードをピラミッドチャートで決めていく。</p>	B3

ま と め ・ 表 現	・「生ごみ」は絶対いる。 ・いろんな人の協力があるから「協力」を入れたい。 ・「作戦」より「大作戦」の方が気合入るよ。		
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 協力して 生ごみをへらそう 大作戦！ </div>		
	作戦1：全校集会で給食のことを発表しよう！ 作戦2：地域の人に呼びかけて生ごみを減らす協力をしてもらおう！		
	作戦1：給食の食べ残しを全校がへらせるように全校集会をしよう！		B3
7	・どんな内容にすると伝わるかな？ ・「食べ残しの量」「給食センターの人の思い」を伝えたいと思う。 ・劇にしたら低学年もわかりやすいんじゃないかな。	○「量チーム」「思いチーム」に分かれて、全校集会の準備を進める。	B4
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 伝えたいことがしっかり伝わるように 内容と方法を考えて練習しよう！ </div>		
	・5日間でランドセル60個分の重さも食べ残しがあります。 ・給食センターの人は一生懸命栄養のことを考えて作ってくれています。 ・食べ残しが返ってきたら、“もったいない”“くやしい”“悲しい”と思っています。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 全 校 集 会 </div>	
	全校集会、集会までをふりかえろう		C1
	・1年生が食べ残しをするシーンで“わるい！”と反応してくれていてよかった。 ・本当にこれで伝わったかな？全校が食べ残しをへらしてくれたか、聞いてみたい。 ・生ごみを減らすのは学校だけでいいのかな？	○ふり返りをベン図を使って、まとめ、よかった点ともう少しの点を把握する。	

課題設定	<p>【探究プロセス2】</p> <p>3 作戦2：地域の人にも生ごみを減らす協力をしてもらうためには、どんなことをする必要があるかな？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・佐伯・鶴岡の生ごみの量 ・生ごみをへらす工夫 ・食材の集め方を調べる ・自分たちだけで調理ができるか確かめる ・食べたくても食べられない国や人はどのくらいいるかを調べて伝える 		
情報収集	<p>9 チームに分かれて、地域の人を説得できる情報を集めよう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・佐伯の生ごみの量チーム ・鶴岡の生ごみの量チーム ・生ごみをへらす工夫チーム ・食べたくても食べられない国チーム ・料理チーム <p>自分たちで料理ができるのか、その時生ごみはどのくらい出るのか確かめよう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野菜の皮だらけ！ ・30人の一食でこんなに生ごみが出るなんて！ ・何かいい方法ないかな？誰か生ごみを減らすプロはいないのかな？ <p><料理チーム → プロ探しチーム></p> <ul style="list-style-type: none"> ・市役所のホームページを見てたら“河野麻美”さんという人がいた！ <p><佐伯・鶴岡生ごみチーム></p> <ul style="list-style-type: none"> ・市役所の人に手紙で聞こう。 <p><生ごみを減らす工夫チーム></p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネットで調べてみよう。 <p><食べたくても食べられない国チーム></p> <ul style="list-style-type: none"> ・本やインターネットでどんな国がどんなことで苦しんでいるのか調べよう。 <p>河野さんに生ごみが出にくいカレーの作り方を教わろう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニンジンとジャガイモの皮はむかない。 	<p>○クラゲチャートを使い、“0円食堂発表会”で生ごみを減らす呼びかけをするために、どんなことをする必要があるかまとめる。</p> <p>○インターネット、本、手紙、アンケートなど、どの方法で調べると詳しく調べられるか話し合いながら決めさせる。調べている途中で困ったら方法は変えてよいことも確認する。</p> <p>○①自分たちの力で料理ができるか ②カレーを作って、生ごみが30人の一食でどのくらい出るかの2点に着目して取り組ませる。</p> <p>○伝えたら「生ごみを減らさない」と思ってもらえそうな情報を集めていく。</p> <p>○①自分たちの作り方とどこが違うのか ②地域の人に伝える時に説得力ある情報がない</p>	<p>B1</p> <p>B2</p> <p>A1</p> <p>B2</p> <p>A2</p>

<p style="text-align: center;">整理 ・ 分 析</p>	<p>・玉ねぎの皮も煮込んで栄養を溶け込ませる。</p> <p>・「食品ロス」「食品自給率」「フードマイレージ」・・・環境のためにも身体のためにも生ごみは減らさないと！</p> <p>・調べるチームを増やそう！</p> <p><佐伯生ごみチーム></p> <p>・2015年 1日平均 5.5t 年間 2014t</p> <p><鶴岡生ごみチーム></p> <p>・2015年 1日平均 720kg 年間 262t</p> <p><生ごみを減らす工夫チーム></p> <p>・生ごみの水の切り方がのってた。</p> <p>・生ごみを肥料にすると無駄にならない。</p> <p><食べたくても食べられない国チーム></p> <p>・飢餓で苦しんでいる国がわかるように世界地図にまとめよう。</p> <p><環境チーム></p> <p>・食品ロスのことやフードマイレージのこと伝えるといいかもね。</p> <p><栄養チーム></p> <p>・皮に栄養があることや、その土地でとれたものを食べるといいことを伝えたい。</p> <p><税金チーム></p> <p>・エコセンターの人に見学のときに聞く。だから、先に全校の給食の様子を担当の先生たちにインタビューしておこう。</p> <p>インタビュー結果</p> <p>・集会後は意識できていたけど、最近はまだ食べ残しが増えてきた。</p> <p>・全校集会をきっかけにクラスで話し合いをした。</p> <p>・あまり変わらない。</p> <p>8</p> <p>集めた情報で地域への呼びかけができるかな？</p> <p>・言葉だけだとわからないから写真をつけたら？</p> <p>・準備が大変な「減らす工夫」は言わないほうがいい</p>	<p>か</p> <p>という視点で話を聞く。</p> <p>○伝えたら「生ごみを減らさないと」と思ってもらえそうな情報を集めていく。</p> <p>○①「この情報は“生ごみを減らす”にはつながらない」</p> <p>②「もっとこんな情報を付</p>	<p>A1</p> <p>B2</p> <p>B3</p>

	<p>いんじゃないかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の人は栄養のこととか知らなくて努力や工夫をしてないのかな？アンケートで聞いてみよう。 <p>情報も集まって伝えたいことも決まり始めたから、0円食堂ができるか考えよう。番組の0円食堂は難しいこともありそうだけど、</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>生ごみを減らすために地域に協力を呼びかけるとき“0円食堂”にこだわるべき？こだわらないべき？</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・番組を見てどんなことをしているか確認しよう。 ・みんなが毎日できることがいいよね。 ・番組の0円食堂は捨てられるものを集めたりしているけど、4年2組がしたいのは少しちがう気がする。 ・誰でも簡単にできることがいいよね。 ・じゃあ、4年2組がしたいことは“0円食堂”のままマネすることとはちがうみたいだね。 	<p>け加えるといい」などの視点で聞き、アドバイスする。</p> <p>○4年2組がしたいのは「0円食堂なのか」「0円食堂を参考にした4年2組だけのものなのか」を相手意識・目的意識を確認しながら話し合う。</p>	<p style="text-align: right;">B3</p>
<p style="text-align: center;">課題設定</p>	<p style="text-align: center;">【探究プロセス3】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>0円食堂をこえる4年2組のムダなし食堂を成功させよう！</p> </div> <p>4</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「これならできそう」と思ってもらえるものになりたい。 ・料理はおいしいものじゃないとだめだと思う。 ・環境や栄養のこともしっかり伝えたい。 ・伝えるだけだと忘れてしまうから、残るものを作って配るといいんじゃない？ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>0円食堂をこえる4年2組のムダなし食堂を成功させるためには、どんなことをする必要はあるかな？</p> </div> <p>メニューを考える・地域の人を学校に招待する 環境への影響を伝える・皮の栄養の話をする 交渉をしたりはしない 捨てられるものにはこだわらない</p>	<p>○ボックスチャートを使い、0円食堂がしていたことと4年2組が調べてきたことから、自分たちの食堂の目的に合ったものを選択していく。</p>	<p style="text-align: right;">B1 B3 B3</p>

情報 収集	7	<p>「早い・簡単・わかりやすい」工夫や調理法を調べよう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・河野さんにカレー以外でどんな料理ができるか聞こう。 ・自分たちでももう一回減らす工夫をインターネットで調べたり、おうちの人にきいたりしよう。 <p>自分たちでも作ってみよう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんなメニューがいいかな。 ・簡単にできるものもいいよね？ ・おいしいものもいいね。 	<p>○「早い・簡単・わかりやすい」を視点を調べる。どんな方法で調べるといいかも考えさせる。</p>	<p>A1 A2 B2</p>
整理 ・ 分析	5	<p>どのメニューにすると「早い・簡単・わかりやすい」になるか考えよう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「おいしい」ものじゃないと食べないよね。 ・材料もどこでも売ってるものいいと思う。 	○	B3
まとめ ・ 表現	11	<p>「ムダなし食堂」の準備をしよう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どうやって招待するといいかな？ ・場所は体育館でいいか校長先生に聞いてみよう。 ・環境や栄養のことを伝える練習をしよう。 ・料理の材料を決めよう。 ・レシピや減らす工夫を書いた本やポスターを作ろう！ <p>4年2組の「ムダなし食堂」</p> <p>4年2組の1年間の総合をふり返ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の人に伝えられてよかった。 ・みんなで協力できて楽しかった。 ・これからは自分も食べ物をむだにしない。 ・来年の総合では○○なことをしてみたい。 	<p>国語「調べてわかったことを発表しよう」 (8時間)</p>	<p>A1 B4</p> <p>C2</p>

6.本時の展開（47/70）

（1）本時の目標

生ごみを減らす食堂にするためにはどのようなことをする必要があるかについて、「食事を作る人が簡単に取り組める」「生ごみを減らすことに直接つながる」等の視点に沿って話し合う活動を通して、食堂の内容を相手意識や目的意識をもって選択することができる。

（2）展開

段階	学習活動と内容	主な支援○と評価◆
<p>導入 5分</p> <p>展開 35分</p> <p>終末 5分</p>	<p>○前時をふり返り、本時の学習のめあてをつかむ。 「簡単に取り組める」「生ごみを減らすことにつながる」等の視点で話し合うことを確認した上でめあての設定をする。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>0円食堂をこえる4年2組のムダなし食堂を成功させるためにはどんなことをする必要があるか考えよう！</p> </div> <p>○理由を述べながら考えを出し、食堂の内容を決めていく。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <pre> mindmap root((4年2組の〇〇食堂)) 減らす工夫 料理の工夫 税金 交しよう しょう待 旬の食材探し 栄養 環境 捨てられる食材探し メニューを考える 生ごみ量 分かれて食材探し いらぬか確認 地元の食材 料理 料理の工夫 </pre> </div>	<p>○前時までの学習を見て、自分たちが大事にしているポイントを確認する。</p> <p>○それぞれが思いを話せるように考えを簡単にまとめさせておく。</p> <p>◆「食事をつくる人につたえるから」「簡単に取り組めるから」等の視点をおさえながら考えを述べることができる。B3</p> <p>○話し合いが行き詰まった場合は近くの友だちと相談する時間をとる。</p> <p>◆自分たちの話し合いをふり返り、友だちの考えを認める文章や、食堂に向けて意欲的な文章が書かれている。</p>